



JSQC ニュース

No.350

CONTENTS

- 1-トピックス EOQ 60周年記念大会に参加して
- 2-私の提言 製品・サービスの信頼
- 2-ルポルターージュ 第386回関西事業所見学会ルポ
- 3-ルポルターージュ 第127回中部講演会ルポ/狩野紀昭氏受賞/
事務局からのお知らせ/3・4月の入会者紹介
- 4-3・4月の入会者紹介/行事案内

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

EOQ 60周年記念大会に参加して 狩野紀昭元会長がEOQ George Borel Awardを受賞!

日本科学技術連盟 専務理事 小大塚 一郎

去る6月1日(水)~2日(木)の2日間、フィンランドのヘルシンキにてEOQ (ヨーロッパ品質機構) 60周年記念大会が開催された。EOQ大会は毎年6月に開催しているが、今年のヘルシンキ大会は約400名の参加があった。

ご存知の方も多いと思うが、ASQ (アメリカ品質協会) とJUSE (日科技連) は1946年に創立され、今年で70周年、その10年後の1956年にはEOQが創立、今年で60周年を迎える、という、いずれも3団体は区切り良い創立年となっている。ASQは個人会員が中心となって構成されていることに対し、EOQは欧州の各国の品質管理団体 (約40カ国) で構成されている。

大会前夜のEOQ Presidential Meetingには、欧州各国の品質管理団体のPresidentクラスが集結していた。欧州以外にも、特別にアメリカのASQ、日本のJUSE、中国のCAQ (中国質量協会) の代表者も招待されていた。プログラムの最初にEOQのGeorge Georgiades会長が歓迎の挨拶を述べた後、EOQ設立当初からの活動を映像で振り返りながら、紹介されていった。その後、主要各国の代表者が60周年を祝って挨拶を述べていった。

そして、プログラムの最後に、EOQ George Borel Award 2016 授賞式が行われた。この、EOQ George Borel Awardは、ヨーロッパの品質管理界では“最高の賞”として位置付けられている。賞はInternational, Governmental, Europeanの3分野に分かれてお

り、それぞれの分野の今年度の受賞者は、Dr. Noriaki Kano (狩野紀昭)、Mr. Charles Corrie, Mr. Viktor Seitschek であった。

EOQのホームページに記載されている狩野元会長の授賞理由について主要な点を抜粋すると次のとおりである。

「世界中で広く用いられている魅力品質理論 (Kano Model) の創始者であることに加えて課題達成QCストーリー、日常管理、TQMの館の創始者でもある。また、アジア品質ネットワークの創設者の一人であり、その名誉会長に指名されている。デンマーク、フィンランド、フランス、英国を含むヨーロッパの国々で、欧州品質機構 (EOQ)、国際品質アカデミー (IAQ)、Aarhus School of Business (デンマーク) を含む諸々の組織で、大会講演者、客員教授、セミナーリーダー、およびコンサルタントとして、多大な貢献をした。」

文字通り品質管理の分野で世界的レベルで顕著な功績を残し、ヨーロッパの品質ムーブメントの発展にも多大な貢献をされてきたことが、高く評価されたものである。心からお祝いを申し上げる次第である。なお、同賞は、日本からは司馬正次氏 (筑波大学名誉教授) が2005年に受賞されている。

また、英国のMr. Charles Corrieは、長年ISO関係の事務局として貢献されてきたこと、また、オーストリアQC協会の会長であるMr. Viktor Seitschekは、長年欧州における品質管理の普及に貢献してきたことで高

く評価されてきたものである。

翌大会初日は、フィンランド国のTarja Malonen元首相が歓迎の挨拶をされた後、EOQ会長のGeorge Georgiadesの開催挨拶があった。その後フィンランド国立バレエ団の理事であるKenneth Greeve氏と司会者とのインタビューセッション、フィンランドアイスホッケーチームのJukka Jalonenコーチの基調講演があった。いずれも、それぞれの分野での指導、育成に当たっていかに人材育成が重要であるかの講演であった。午前中の最後の基調講演は狩野元会長が、“Integrated Procedure for Quality Improvement” のテーマで講演された。経営者対象というより、今回の会議の参加者に合わせた講演で、日本のTQM、現場のQCサークル活動の改善、6シグマとの比較等を交えた実務的な講演であり、好評であった。また、一般発表、ポスターセッションについては、日本からは、加藤省吾氏 (国立成育医療センター)、下野僚子氏 (東京大学) の発表があった。

なお、今回、国連と世界貿易機構 (WTO) 傘下の国際機関である国際貿易センター (ITC) と日科技連が創設団体の一つとなっている世界品質同盟 (WAQ) が、主に途上国の中小企業支援のためのフレームワーク「世界品質プラットフォーム (Global Platform for Quality)」構築のために相互協力していくことで合意したことも合わせて報告しておきたい。この合意については、会議期間中の6月1日にITCと世界品質4団体で署名式典を行った。

● 私の提言 ●

製品・サービスの信頼

積水化学工業株式会社 新木 純



2015年10月、建築物の工事に関わる疑惑が発覚した。横浜市のマンションで隣り合う2棟の建物のジョ

イント部に約2cmの段差があることが明らかになった。原因調査の過程で、基礎杭が支持層に到達していない可能性があることが明らかになり、到達を裏付ける筈のデータの流用が確認された。この物件の請負会社以外でも不正が判明した。杭打ち工事は下請けが担当する場合が大半だが、元請けへの報告は、全体の杭打ち終了後に一括して報告す

ることが常態化していた。現場責任者が杭打ち工事中で一部のデータ紙を失い、他データを流用して体裁を整え、報告していたとされている。

品質保証に関する重要な原則として、“事実に基づく管理 (Fact Control)”がある。経験や勘に頼るのではなく、データや事実に基づいて管理するという行動原則であり、原則を実践することが重要となる。しかし、全ては“事実が正しい”ことが前提である。今回のように“事実に基づかない”データの流用は、品質保証の枠を越えた忌々しき問題である。

今回の問題で国土交通省の有識者委員会委員長は「問題は当事者の意識が

しっかりしたモノ作りを離れ、データの体裁を整えることになってしまったことだ」と指摘した。本質的な問題は、杭をしっかり支持層に届かせ、建物の安全性を確保するという目的を忘れ、書類の体裁を整えることを目的化してしまったことだ。

企業社会では、過当競争や能力主義などの重圧によって、道を踏み外すような事態はいつでも起こりうるという認識を持つことが重要である。また、従事者の意識・意欲・モチベーションの維持・向上が図れているか、役割や責任に見合った処遇となっているのか等の認識も忘れてはならない。製品・サービスの信頼は、従事者の安心・安定と深く関係がある。

これらの問題は、他業界も対岸の火事でない。2016年4月、軽自動車メーカーによる意図的な品質関連データの改ざんが発覚した。当学会は直ちに、理事会の総意に基づき、強い抗議の意を緊急メッセージとして発信した。その意義は非常に大きいと思う。

第386回関西 事業所見学会 ルポ

川崎重工業(株) 車両カンパニー

去る平成28年5月10日(火)、川崎重工業(株)車両カンパニー兵庫工場(神戸市兵庫区)にて、第386回事業所見学会が開催された。「鉄道車両の耐衝突性能の向上と製造現場での品質向上活動についての取り組み」をテーマとし、参加人数は予定数を大幅に上回る46名(内女性2名)と盛大な事業所見学会となった。

同社車両カンパニーは、新幹線をはじめとする特急電車・通勤電車・地下鉄・機関車・新交通システムなど様々な車両を国内だけでなく、世界各国に送り出している鉄道車両製造のトップメーカーである。

まず始めに、安全対策の取り組みについて説明があった。国内では予防安全に重きが置かれ、衝突事故の発生件数が海外に比べて少ない。これは、未然に事故を防ぐことに力を入れている取り組みの成果と言える。

また、衝撃吸収構造の研究も進められ、品質向上を

意識した様子が窺える。

工場見学では、参加者は3つのグループに分かれ、主に通勤電車の製造工程を見学した。最初に構体の生産、次に台車の組立、そして外装部品の取付けを経て、最後に内装部品の艦装を施し完成する車両の製造ラインを順に巡った。鉄道車両の製造は、機械作業かと思いきや、手作業が中心で、まるで巨大なプラモデルを手順通り組立てるかのような現場風景に関心が集まっていた。

質疑応答では、車両本体についての質問から、共同設計についての他社との連携や技術標準化の工夫、ヒューマンエラーの防止策など、活発な質問が飛び交う大変充実した意見交換会となった。

アンケート結果でも、ほとんどの参加者が「大変参考になった」と大好評で、充実した工場見学は参加者を非常に満足させることができ幕を閉じた。

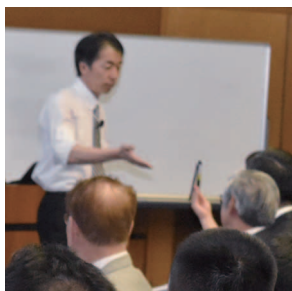
最後に川崎重工業(株)車両カンパニー兵庫工場の皆様方には業務多忙の中、親切丁寧なご説明及び製造現場見学の機会を設けて頂き、厚く御礼申し上げます。

釜口 友希(株)岩崎電機製作所

第127回中部 講演会 ルポ

『業務効率(仕事の質)向上 のための論理的伝達力』

5/27(金)、名古屋国際センターにて濱口哲也氏(東京大学大学院教授)を招いた講演会が開催され、募集枠を大幅に超える229名が参加された。論理的な思考に基づいて正しい日本語で



意思を伝達することの重要性やその伝達力を磨くポイントが、実例や演習によって分かりやすく解説された。

始めに、講演テーマの背景として、意思疎通が不十分なため、社内報告書が何回もチェックバックされる等、意思の伝達力が仕事の質に大きな影響を与えることが説明された。そして、伝えたいことをうまく伝えられない社会人が多い最大の要因は、従来の日本の国

語教育が文学や道徳中心の教育であり、文法や言葉の論理性を学ぶ語学の場ではなかった点にあると指摘された。

日本語で意思を正確に伝えるためのポイントとして、単語を正しく使うこと、英文と同様に文型を意識し、主語と述語の関係を明確にすること、また、格助詞(てにをは)や接続詞の使い方に注意すること等が指導された。論理的伝達力を高めるためには、これらの点を頭において、他人が作成した文書の論理性をチェックするだけでなく、過去の送信メール等、自身の文書を見直すことが有効であると実践体験を踏まえて語られた。

終盤に、スクリーンに映し出されたテレビCMのセリフを聴いて、おかしな表現にツッコミを入れる訓練が行われた。終始テンポ良く進められた3時間の講演は、参加者にとって、休む間もなく頭をフル回転させながら内容を理解し、実践の意識を高める貴重な機会になった。

船見 晃啓(楸竹中工務店)

2016年3月の 入会者紹介

2016年3月30日の理事会において、下記の通り正会員10名、準会員36名の入会が承認されました。

(正会員10名) ○山田 健太郎(総合研究大学院大学) ○茨木 宏和(関西電力) ○寺山 通博(アクアテック) ○武田 仁(リコーインダストリー) ○竹島 正(川崎市役所) ○竹内 静(サカタのタネ) ○若井 博雄・石倉 慎太郎(日本規格協会) ○山岸 哲人(デンソー) ○出島 和宏(ブラザー工業)

(準会員36名) ○岩澤 達也・小野 順也・鈴木 遼・板東 佑樹・吉田 健太・李 越(東京理科大学) ○大島 一真・河野 啓太・戸谷塚 哲史・中村 晃仁・織田 真・丸尾 太郎・永田 拓也・若林 佑介・山崎 彰子・明樂 政宏・渡邊 阿沙子・坂本 佳太・上野 佑馬・久内 英敬・関 真永・梅田 芳直・揚原 由統・武井 真彦(早稲田大学) ○榎田 晃岐・石川 岳史・白井 智鵬(慶應義塾大学)

狩野紀昭氏がEOQ George Borel Award 2016 を受賞

本学会名誉会員・元会長で東京理科大学名誉教授の狩野紀昭氏がEOQ(ヨーロッパ品質機構)60周年記念大会で、EOQ George Borel Award 2016を受賞されました。受賞理由は1ページのトピックスをご覧ください。

狩野氏は、日本での個人に与えられる品質管理の分野での最高の栄誉であるデミング賞本賞を受賞し(1997)、米国品質協会(ASQ)からは最高の栄誉である名誉会員に指名されています(2014)ので、今回のBorel Award受賞により、日、米、欧での三冠栄誉を達成されたこととなります。誠にありがとうございます。

事務局からのお知らせ

日本品質管理学会監修「JSQC選書25」好評発売中

●JSQC選書25 (176ページ)

書名: QCサークル活動の再考-自主的小集団活動

著者: 久保田洋志

判型等: 四六判、並製本

定価: 1,600円(税込) → 学会員特典価格: 1,280円(税込)

申込方法: http://www.jsqc.org/ja/kanren/jsqc_sensyo.html

※書籍は請求書を同封して日本規格協会から発送いたします。

○浅井 雄貴・福山 遼(名古屋工業大学) ○五十畑 直紀(群馬大学) ○ Watcharathiansakul Meena・越智 優一(電気通信大学) ○三谷 正明(筑波大学) ○宮川 修二郎・橘川 学・鯨岡 徳廣(青山学院大学)

2016年4月の 入会者紹介

2016年4月20日の理事会審議において、下記の通り正会員7名、準会員2名の入会が承認されました。

.....
(正会員7名) ○伊藤 由紀美 (Y&Iジャパン) ○川西 由美子 (ランスタッドEAP総研) ○森田 啓文 (東洋ビューティ) ○Javier Villalba Diez (Center for Leadership Mannheim UG) ○

岡田 俊 (サクラテック) ○笠原 照朗 (城東ロー付工業所) ○大宮 喜文 (東京理科大学)

.....
(準会員2名) ○湯前 理紗 (電気通信大学) ○須賀 大貴 (東京理科大学)

.....
正会員：2033名
準会員：55名
職域会員：39名
賛助会員：151社196口
公共会員：17口

行事案内

●第99回クオリティトーク (本部)

テーマ：東日本大震災と資格制度「地盤品質判定士ー公益社団法人地盤工学会の活動と運営 (2011-2015)」

ゲスト：末岡 徹氏
 (JSQC副会長・地盤工学会第32代会長)

日時：2016年8月30日(火)18:30~20:50
 会場：日科技連東高円寺ビル5階研修室
 定員：30名

申込先：本部事務局
 詳細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280830

●第111回研究発表会 (中部)

日時：2016年8月31日(水)
 研究発表会 13:00~18:20
 懇親会 18:30~20:00

会場：名古屋工業大学
 参加費：会員4,320円(締切後4,860円)
 非会員6,480円(締切後7,020円)
 準会員2,160円・一般学生3,240円
 ※当日払いは別金額となります。
 [懇親会]

会員・非会員 3,500円
 準会員・一般学生 2,500円

申込締切：2016年8月24日(水)
 申込先：中部支部事務局
 詳細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280831_2

●第112回研究発表会 (関西)

日時：2016年9月2日(金)10:00~16:45
 会場：大阪大学中之島センター
 プログラム：

特別講演「光合成機能の研究と応用」
 蘆田弘樹氏 (神戸大学)

参加費：会員3,000円 非会員6,000円
 準会員1,000円一般学生2,000円
 ※当日払い

申込先：関西支部事務局
 詳細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280902_2

●第159回シンポジウム (関西)

テーマ：元気なゲンバを創るための視点

日時：2016年9月7日(水)13:00~17:00
 会場：大阪大学中之島センター10階
 佐治敬三メモリアルホール

プログラム：
 講演1「職場に活かすベストコミュニケーション ~ゴードンメソッドが人生を変える~」
 瀬川文子氏 (親業訓練協会)

講演2「製造業の若手採用応援PRJゲンバ男子にみる「ものづくりはひとつづくり」」
 山野千枝氏 (大阪産業創造館)

パネルディスカッション
 「ものづくりの原点は、人づくり、職場づくり」
 司会：高木美作恵氏
 (元 シャープ)

参加費：会員4,000円 非会員6,000円
 準会員2,000円一般学生3,000円
 ※当日払い

※今回に限り、女性の方は非会員でも会員の参加費でご参加いただけます。
 申込先：関西支部事務局
 詳細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280907

●第160回シンポジウム (本部)

テーマ：開発・設計に必要な統計的品質管理
 日時：2016年9月10日(土)9:55~17:00
 会場：日科技連東高円寺ビル2階講堂
 定員：120名

プログラム：
 趣旨説明：永田 靖氏
 (産学連携研究会・早稲田大学)
 「開発初期における設計品質のつくり込みー技術的知見の集約と活用を通じた未然防止の実践ー」

江口 真氏 (トヨタ自動車)
 「スパースモデリングの方法ー高次元回帰分析法ー」

荒木孝治氏 (関西大学)
 「スパースモデリングの方法ー社内教育と適用成果ー」

吉野 睦氏 (デンソー)
 「工程能力について再考する」
 仁科 健氏 (名古屋工業大学)

「統計的ものの見方・考え方を定着させるしくみ・体制」

小杉敬彦氏 (トヨタ自動車)
 パネルディスカッション
 リーダー：永田 靖氏

申込締切：2016年9月2日(金)
 詳細・申込：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280910

●第100回記念クオリティトーク 【歴代会長 大いに語る!】 (本部)

テーマ：これからの…
 ゲスト：前田又兵衛氏、狩野紀昭氏、飯塚悦功氏、大沼邦彦氏、大久保尚武氏

日時：2016年10月22日(土)13:55~17:00
 会場：日科技連東高円寺ビル
 地下1階講堂、他

定員：100名
 申込先：本部事務局

●第46回年次大会・名古屋工業大学(本部) 発表募集中!

日時：2016年11月26日(土)

- 申込期限
 発表申込締切：9月15日(木)
 予稿原稿締切：10月25日(火)必着
 参加申込締切：11月16日(水)
 - 研究発表・事例発表の申込方法
 7月送付の発表申込要領をご覧ください。
 - 参加申込
 本部事務局までお申し込みください。
- 詳細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h281126

行事申込先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/
 本部：TEL 03-5378-1506
 FAX 03-5378-1507
 E-mail：apply@jsqc.org
 中部支部：TEL 052-221-8318
 FAX 052-203-4806
 E-mail：nagoya51@jsa.or.jp
 関西支部：TEL 06-6341-4627
 FAX 06-6341-4615
 E-mail：kansai@jsqc.org